

現場見学会

岩国工業高等学校／都市工学科



真綿川治水ダム

初めてダム建設現場に立った生徒の皆さんは「自分の立つている場所は地上何メートルだと思っ？」という質問に「50m!」「70m!」と声をあげますが、正解は20m。現

場では生徒の皆さんは、その風景を目に焼き付けながら、熱心に話を聞いていました。

次に向かったのは、ダムから5km下流へすすんだ真綿川総合流域防災事業現場。この現場では、水を防ぐために川幅を広げるだけ



真綿川河川公園

まく利用した経済的な土台であるという説明を受け、熱心に土台を覗き込みます。さらに場所を移動して、県内最大のダブルデッキ構造（2階建）である厚東川新橋の2階部を見学しました。地上約20m、全長約500mの巨大な橋の上から眺める景色に生徒の皆さんは目をきらきらさせ、

山口県建設業協会では、土木を勉強している学生に実際の現場を見てもらうことを目的に、毎年現場見学会を行っています。今回は、平成18年6月13日に行われた岩国工業高等学校都市工学科の1年生40名の見学会を取材しました。

最初に向かったのは、宇部市にある真綿川治水ダム建設事業現場。平成20年完成予定の真綿川治水ダムは、土を主な材料としてつくる「アースダム」で、本川側と支川側の2つからなる珍しい形のもの

場で感じる生の空気は迫力満点だったようです。その後、アースダムの中心部となるコア材の土、さらにコア材を支えるゾーン部の土を実際に触らせてもらい、それぞれの土の役割についての説明を受けました。県内では最後のダム建設となるのでは、といわれている現場で生徒の皆さんは、その風景を目に焼き付けながら、熱心に話を聞いていました。



それぞれの土を触り比べる

でなく、宇部の中心部を流れる真綿川を街のシンボルとしてとらえ、流域を市街地にふさわしい憩いの場にするため、川の傍の緑地や公園、道路整備など、街づくりと一体になった事業が進められています。川縁の整備はちょうど片側が終了しており、「こんな綺麗な川縁になれば、住んでいる人ももっと川をキレイにしようと思っ、ポイ捨てや排水にも気をつけるかもしれない」と目を輝かせる女生徒もいました。

最後の見学会は、宇部小野田湾岸道路現場。アクセスをよりスムーズにし、地域の発展に繋げることがを目的に、山口市から小野田までの約40kmの自動車専用道路を整備する大きなプロジェクトで、県実施レベルでは初の連続高架構造となっています。生徒の皆さんは、事務所での概要や経過の説明を受けた後、まず橋の基礎をつく

現場の方や先生、友達と積極的に橋の印象について語り合いました。引率の川崎先生は「授業で50回しゃべるよりも、現場を見る方が勉強になると思っっています。1年生で専門的なことはまだあまり習っっていない生徒達ですが、土木にいきたくて夢を膨らませている者も多いです。造ることのおもしろさを改めて知ってもらえたのだと思います。」と笑顔でおっしゃっていました。生徒の中には、巨大な厚東川新橋の上で「3年後にはこの現場にいるかも!」と意気揚々と語る生徒もあり、今日感じた実際の工事の迫力にも負けないくらい、大きな夢を育んでいっっほしいと思っいました。

厚東川新橋



川崎先生

造ることの楽しさを掻き立てる
大きな原動力に